

公園あそび

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで運動を通じて健康的な体力を維持・向上し、自己管理能力を育てる。 ○体調管理や衛生面での習慣化（手洗い、うがい、水分補給など）する。 	<p>【ウォームアップとクールダウン】 全員で準備運動とストレッチ体操を行い、体を無理なく動かすことの大切さを知る。</p> <p>【健康管理の意識づけ】 遊びの合間に水分補給や休憩の時間を定期的に設け、暑さや寒さ対策を子どもたち自身で考えさせます。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○身体を使った遊びを通じて、運動能力や体の使い方のスキルを向上させ、バランス感覚や協調性を強化する。 ○感覚統合（視覚、聴覚、触覚など）の発達をサポートし、全身のコーディネーションを高める。 	<p>【全身を使う運動】 かけっこやリレー、ボール遊び、つかめ鬼、チャンバラ（スポンジ剣を使う安全な遊び）を取り入れて、走る、投げる、捕まえる、反応するなど多彩な運動を楽しく行う。</p> <p>【バランスや反射を鍛える遊び】 障害物を避けるレースや鬼ごっこ、不安定な床でのチャンバラなど、バランス感覚を使う遊びを行い、体の柔軟性や反射神経を養う。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びやゲームのルールを理解し、それに沿って行動する力を養い、問題解決能力を高める。 ○自分の行動が結果にどのように影響するのかを踏まえ、状況に応じた柔軟な対応力を身につける。 	<p>【ルールのある遊び】 リレーやボールゲーム、鬼ごっこのルールを守ることで順序や約束事を学ばせる。たとえば、リレーではスタート時の合図やバトンパスのタイミングを考えさせる。</p> <p>【判断状況を育てる】 チャンバラでは相手の動きを観察しながら防御や攻撃を行う場面を意図的に作り、戦略的に行動する力を養う。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○迅速な意思疎通を行うための言語力を高め、相手の話を聞いて考え、自分の考えを伝える力を育む。 ○協力して遊びながら、コミュニケーションをとってチームワークを学ぶ。 	<p>【作戦会議や役割分担】 リレーや鬼ごっこ、チーム対抗戦などの前に、作戦会議を行い、自分の意見を反省する場面や、周囲の意見を聞く機会を避ける。</p> <p>【遊びの振り返り】 遊びが終わった後に「どこがいけなかったのか」「次はどうすればもっと良くなるか」と話し合う時間を設け、適切なコミュニケーションの仕方を理解させる。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【協力が必要な遊び】 リレーやボール遊びでチームワークを重視し、他の子どもたちと協力して勝利を目指す経験をさせます。例えば、仲間に声をかけて応援するシーンを作る。</p> <p>【感情の調整と思いやりの指導】 勝ったり負けたりした際に、喜びや悔しさを正しく表現し、相手を尊重する態度を育てるためのサポートを行う。</p>

運動あそび

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○運動を通じて体力や持久力を向上させ、健康な身体を維持することを目的とする。日常生活における身体の使い方や疲労感を適切に管理できるようにする。 ○ストレッチやボール遊びを通じて、柔軟性や体幹を鍛え、日常生活での動作の効率を高める。 ○楽しく体を動かす経験を積むことで、運動習慣を形成し、将来的に自発的な運動を促す。 	<p>【運動前後の準備・整理体操】 ストレッチや軽い体操を指導し、運動前に体をほぐし、終了後はクールダウンを行うことで、怪我の予防と疲労回復を図る。</p> <p>【運動の楽しさを強調】 運動の目的や成果よりも、楽しさを強調し、子どもが自ら運動に取り組むように促す。たとえば、風船バレーやドッジボールのようにゲーム性を取り入れ、参加を促す。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○ボール遊びやドッチボールを通じて、手足の協応性、素早い反応、バランス感覚を養い、運動能力全体の向上を目指す。 ○ボールキャッチ遊びを通じて、物体と自分の距離感を測る能力を発達させ、空間認識力を向上させる。 ○風船バレーやボール遊びを通じて、視覚、触覚、運動感覚を統合し、全身の動きを調整する力を強化する。 	<p>【段階的な指導】 子どもの発達レベルに合わせて、簡単な運動から始め、徐々に難易度を上げる。たとえば、ボールキャッチは最初は短い距離から始め、徐々に距離を広げていく。</p> <p>【バランスや感覚の意識】 バランスを養うレクリエーションでは、床に設置されたマットやバランスボールを使用し、バランス感覚に集中させる環境を提供する。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○運動やゲームのルールを理解し、そのルールに従ってプレイすることで、集中力や計画的思考の発達を促す。 ○ドッチボールや風船バレーのように、瞬間的な判断や動きが必要なゲームを通して、素早い反応力を鍛える。 ○ルールを守りながら遊ぶことで、自己制御力や行動管理能力を発達させる。特に、勝ち負けのあるゲームを通じて感情のコントロールを学ぶ。 	<p>【ルールの明確化】 ゲーム開始前にルールを簡潔に説明し、視覚的に理解できるように図やジェスチャーを使う。ルール違反があった場合はその都度優しく説明し、次回に活かすようにする。</p> <p>【成功体験を重視】 できたことや成功した場面を褒めて、ポジティブなフィードバックを与えることで、次の挑戦へのモチベーションを高める。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の手指示を理解し、それに従うことで、言語理解力と適応力を向上させる。 ○チームで行うゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや協力を促進し、意見交換や助け合いの重要性を学ぶ。 	<p>【対話型の指導】 子どもたちにゲームや運動に関して質問や指示を出し、それに答えたり、従ったりするように促す。たとえば、「次にボールを投げるのは誰？」や「どうやってキャッチするの？」といった質問をする。</p> <p>【感想の共有】 運動後に、それぞれの子どもに感想を聞き、どの部分が楽しかったかや難しかったかを言葉で表現させる機会を設ける。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【役割分担と協力】 チーム分けを行い、それぞれの役割を与えることで、共同で目標を達成するための協力の大切さを学ばせる。たとえば、風船バレーでは、全員が同じ役割ではなく、守る人と攻める人を分けて役割を理解させる。</p> <p>【勝敗の扱い方】 ゲーム後に、勝ち負けの結果に対して全員で感想を共有し、勝ったチームへの賞賛や、負けたチームへの励ましを通じて、スポーツマンシップや相手を尊重する態度を教える。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
作業療法活動	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な手指の器用さを育て、物をしっかり持って扱う力を身につける。 ○集中力や忍耐力を高め、決められた時間で最後まで作業をやり遂げる力を養う。 	<p>【活動時間の内容を設定】 作業時間を決めて取り組むことで、時間内で集中して進める習慣を身につかせます。途中で飽きてしまったり、集中力が切れたときは声かけを行い、少しずつ進捗をサポートします。</p> <p>【姿勢指導】 適切な姿勢を指導し、長時間取り組んでも疲れないように支援します。作業が続く場合は短い休憩を入れることで、集中力の維持を助けます。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○はさみやのり、ペンなどを使用することで、指先の運動スキルや力加減を向上させます。 ○紙やのりなどさまざまな感触に触れることで、触覚の感覚を養います。 	<p>【指先の感覚を養う】 はさみを使う練習では、切る線をしっかり見ながら進め、正確に切るための手の安定性と集中をサポートします。職員が一緒に手を動かすことで安全性を確保します。</p> <p>【触覚の感覚】 指先でのりやマジックペンを使う際、手が汚れる感覚にも慣れさせ、感触を受け入れる力を育てます。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○順序立てて考える力や、計画的に進める力を養います。 ○季節に合わせた作品を作ることで、四季や行事に対する理解を深めます。 	<p>【計画性】 作品を作る手順を示し、「まずこれを作って、次にこれをつける」というように手順に沿って進めるようサポートします。作業が進むたびに目標を声に出して確認することで計画性を持たせます。</p> <p>【季節の行事理解】 季節の行事について説明し、作るものの意味を伝えながら意図的に取り組ませるサポートを行います。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○作りたいものや作業内容についての表現力を高め、自己表現する機会を増やします。 ○他の子どもたちと完成品について会話を交わすことで、コミュニケーション力を養います。 	<p>【自己表現】 **「どんな作品にしたい？」**と質問して自分の考えを話せるようサポートし、作業後も作品について他の子どもと感想を言い合う時間を設けます。</p> <p>【コミュニケーション】 職員が完成品を見ながら**「ここが素敵だね」と話しかけ**、作品の良いところを伝えられるようにします。他の子どもからの意見にも耳を傾けられるように支援します。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【社会性】 作品作りの際、他の子と材料を共有するよう役割分担を行い、自然なかたちで協力して作業できるようにします。順番を守る練習にもつなげます。</p> <p>【人間関係】 お互いに作品を見せ合い、褒めたり感想を伝えたりする機会を設け、子ども同士の交流を促進します。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
P C	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○長時間のパソコン使用による身体の負荷（肩こり、目の疲れ、姿勢の不調など）を防ぐために、正しい姿勢や休憩の取り方を学ぶ。 ○パソコン利用の管理時間、1日の生活リズムの中で正しい時間に利用できる習慣を身につける。 	<p>【姿勢指導】 画面の高さや椅子の調整、手首の位置などを適切に整え、負担の少ない姿勢で作業するための指導を行います。具体的には、子どもの身長や体格に合った作業環境を整備し、視覚的なサポート（姿勢を示すポスターや絵）を提供する。</p> <p>【休憩の取り方を指導】 一定時間ごとに目を休めるためのルールを設け、ストレッチや軽い運動を取り入れる。例えば、自由時間の前に画面から目を離し、遠くを見る「目の体操」を実践する。</p> <p>【自己管理の練習】 パソコン利用前にスケジュールを立て、開始時間と終了時間を繰り返して管理する習慣を育てます。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○キーボードやマウスを使った指の運動、細かい手の動きやコントロールを向上させます。 ○画面上での視覚的なフィードバック（タイピングの正確さや速度）と手の動きの調和を意識することで、手と目の協調を高めます。 	<p>【タイピングの段階的な指導】 初めての子どもには、最初のキーの位置を知るために大きなシールや色分けされたキーボードを用意し、ゆっくりとしたタイピングから始める。習熟度に応じてタイピング速度を段階的に高める。</p> <p>【視覚フィードバックを活用】 タイピング練習のプログラム（例「あいうえおタイピング」や「寿司打」）では、タイピングの正確さや速度が視覚的にフィードバックされることで、成功体験を提供します。</p> <p>【マウス操作の練習】 繊細な操作を簡単なクリック練習を取り入れています。また、視覚的な要素を含んだパズルや簡単な操作ゲームで手の動きと画面上の反応を結び付けます。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○パソコン操作やタイピング、子どもの計画的な行動や問題解決能力を育てます。また、新しいツールやソフトウェアを使いこなすための適応力を養う。 ○タイピング練習文章や入力作業、注意力と集中力を高めます。 	<p>【段階的な課題設定】 タイピングの課題を小さな目標に分け、子どもが無理なく達成できるようにします。例えば、「今日は50音タイピング」「次は文章を入力してみよう」という調子で、スモールステップで課題を考えます。</p> <p>【集中力の向上プログラム】 特定の時間内に指定された課題を完了する練習をしながら、集中力を養う。例えば、5分間は集中してタイピング練習を行い、その後短い休憩を入れることで集中力の持続を変化。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語とローマ字のタイピング練習をしながら、文字の認識力と文章表現力を育てます。 ○紙に書かれた文章をパソコンで入力することで、情報の整理や文章の構成力を強化します。 	<p>【ローマ字入力のサポート】 ローマ字表やタイピング練習アプリを使い、基本的なキー配置と指の使い方を教えます。特に初心者には、最初は母音から始めて、次に子音を組み合わせさせた単語の入力に進みます。</p> <p>【言語的なフィードバック】 入力した文字が正しく反映させられることを視覚的に確認、間違えた箇所は自ら子どもで見直しができる。</p> <p>【文章入力の練習】 紙に書かれた文章をパソコンで入力する作業では、短い文章から始めて、段階的に長い文章を発展させます。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【インターネット安全利用指導】 動画視聴やオンラインゲームの際に、適切なコンテンツの選択や、オンラインでの基本的なルール（暴力的なもの、刺激的なものは見ない、失礼なこと言わない）を指導する。</p> <p>【協力的な活動の導入】 タイピングゲームをチーム対抗で行い、協力して課題を達成するような形を採用。 適度な競争を無視：ゲーム形式でスコアを競い合う活動を取り入れることで、他者との競争を経験し、負けを通じた感情のコントロールと健全な競争心を育てます。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
クッキング	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○調理活動を通して、子どもたちの基本的な栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）やバランスの良い食事の重要性を学びます。 ○調理の際の手洗い、清潔な器具の使用、食品の取り扱い方などを知って、感染症や食中毒の予防につなげる。調理を経験し、自己管理の意識を育てます。 ○食材がどのように作られ、食卓に届くかを考える機会を与え、食べ物への感謝の気持ちを育む。また、自分で調理したものを食べることで、健康維持に対する意識を高める。 	<p>【栄養指導】 調理する際に使用する食材の栄養素を、簡単な言葉で説明し、なぜその食材が体に良いのかを教えます。たとえば、パンケーキに含まれる小麦粉は炭水化物でエネルギー源となり、卵はタンパク質を含んでいると伝えます。</p> <p>【衛生教育】 調理を始める前の手洗いを徹底し、特に食品を扱う際の清潔な手指の大切さを理解してもらいます。器具を使用する前後の消毒や、調理後の片付けを丁寧に行う、衛生を日常的に身につけてもらいます。</p> <p>【感謝の表現】 調理後には、食材や料理を提供してくれた人々（農家や家族など）への感謝を口に出して表現する機会を作り、食に対する敬意を表します。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○調理作業（材料を混ぜる、切る、計量など）をすることで、手先の器用という細かい動作の調整能力を向上させます。体の各部位の筋力や柔軟性を向上させ、日常生活に必要な身体能力を向上させる。 ○味覚、視覚、嗅覚などの五感全てを働かせるので、脳の活性化につながる。 ○素材に触れることで、触覚を発達させ、温度や食感を意識する。熱を感じたり、冷たい素材に触れたりする経験、注意力を高める。 	<p>【段階的な指導】 子どもたちの能力に応じて、簡単な動作（混ぜる、注ぐ）から始め、徐々に難しい動作（切る、焼くなど）に進んでいきます。</p> <p>【感覚の促進】 適切な大きさに切る「空間認知能力」、ふたを開けたり閉めたりする「両手の協調性」、取扱いやメニューを決める思考力、判断力など幅広い能力向上と促進につなげます。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○料理の手順を把握し、段階を踏んで行うことで、計画思考や遂行機能（計画する、実行する、評価）の発達を補助。 ○調理段階でのトラブル（材料が足りない、時間がかかるなど）に対処することで、問題解決能力を鍛える。 ○手順を守りながら、作業に集中して取り組むことで、注意力や集中力を強化します。 	<p>【手順の視覚化】 簡単なレシピカードや図解を用意し、子どもたちの目で見やすいように手順を明確化し、一緒に確認します。</p> <p>【フィードバックの提供】 作業が完了するたびに、その結果を確認し、成功した点や改善点についてフィードバックを行います。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○料理中に他人との対話や質問を通じたコミュニケーション能力を向上させます。具体的には、共同作業をしながら適切な指示を出したり、受け止めたりする能力を養う。 ○調理の感想や、味についての意見交換を通して、自分の考えを正しい言葉で表現力を伸ばす。 	<p>【対話の進め方】 調理中は、自然な会話が生まれるように、たまに質問や話題を投げかけ、他の子どもやスタッフと意見を交換する場を作ります。「この味どう思いますか？」のような具体的な質問をします。</p> <p>【感想の共有】 調理後に作った料理についての感想を発表する時間を作ります。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【役割分担とチーム作業】 気軽たちに対して、調理工程ごとに役割分担をし、それぞれが協力して1つの料理を完成させる体験を取り入れます。</p> <p>【感覚の共有】 調理が完了した後、作った料理をみんなで食べることで、達成感や協力の成果を体感してもらいます。</p>

カードボードゲーム

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
	健康・生活	<p>○定期的な活動を通じて、適切な休息と活動のバランスを確立し、健康的な生活習慣を維持する。</p> <p>○遊びの中でリラクゼーション効果を得て、精神的な安定を図る。特に勝ち負けのプレッシャーに耐える力や、負けたときの感情調整を学ぶことも目標となる。</p>	<p>【生活リズムの安定】 ゲーム前後の準備や片付けを通じて、日常生活での「始まり」と「終わり」を意識させる。これにより、生活リズムを整えるサポートを行う。</p> <p>【ストレスの軽減】 ゲーム時間を設定し、適度な時間内で集中しながらリラックスすることを奨励。長時間の集中が負担になる場合は、途中で休憩時間を設け、ゲームに関連したリラクゼーション活動（軽いストレッチや深呼吸）を取り入れる。</p> <p>【精神的な安定】 勝敗のあるゲームでは、勝ったときも負けたときも、その結果を自然に受け入れることを支援し、自己肯定感を高めるための声掛けを行う。</p>
	運動・感覚	<p>○カードをシャッフルする、ボードゲームの駒を動かすといった小さな動作を通じて手指の器用さを高める。</p> <p>○ゲームの駒やカードの配置、色、形、数字、文字を認識し、それらを区別する力を養う。</p> <p>○視覚や触覚を組み合わせる駒やカードを操作し、感覚統合能力を強化する。</p>	<p>【微細運動スキルの向上】 カードをシャッフルする際や、カードを配る動作など、手先の動きを重視した活動をサポート。具体的には、カードを扱うときに手指の使い方に注意を向けさせ、ゆっくり正確に動作を行うように促す。</p> <p>【視覚認知の発達】 色や数字を素早く認識するトレーニングをゲーム中に取り入れる。例えば、オセロでは黒と白の駒を瞬時に判断することが求められるため、その視覚認識能力をサポート。</p> <p>【感覚統合の促進】 カードや駒を持つ際に、感覚的に物を把握し、適切な力加減を使うことを意識させる活動を取り入れ、感覚の調整を行う。</p>
	認知・行動	<p>○ゲームの展開を見通し、戦略的に行動する力を育てる。特に「宝石の運び」などの戦略ゲームでは、先を見越した計画立案能力が重要になる。</p> <p>○ゲーム中に発生する問題（手持ちカードの少なさ、相手の強い戦略など）にどう対処するかを考え、解決策を見つける力を鍛える。</p> <p>○ゲームのルールを守りながらプレイし、適切な行動を選択できるようになることを目指す。</p>	<p>【計画的思考】 各ゲームのルールを分かりやすく説明し、特に複雑なゲームではルールを段階的に理解させるため、最初は簡単なルールでスタートし、徐々に追加ルールを導入する。</p> <p>【問題解決能力の向上】 戦略性の高いゲームをプレイする際に、次の一手を考える時間をしっかり確保し、焦らずに考えさせる。また、その場での選択をサポートするために「もし次にこうなったら、どうする？」といったアドバイスやヒントを適宜提供。</p> <p>【自己制御とルール遵守】 ゲームの進行中にルールを守らなかった場合、即座に指摘するのではなく、子どもが自分で気付くように促し、行動を修正する機会を与える。</p>
	言語・コミュニケーション	<p>○自分の考えや行動を言葉で表現し、他者と意見交換を行う力を養う。特に「犯人は誰か。」では、自分の立場や推理を明確に伝える力が求められる。</p> <p>○他者の発言を聞き、それに対して適切に返答するコミュニケーションスキルを高める。ディスカッションや推理の場面で、対話を通じて意見交換を行う。</p>	<p>【言語表現の強化】 プレイ中に自分の考えや次に取る行動を言葉で表現する場面を意図的に作り、口頭での説明を促す。例えば、手持ちのカードを見せずに「これを出すつもり」と口にするなどで、表現力を養う。 ゲーム中の対話を活性化させるため、グループプレイを推奨し、他の子どもたちと協力して進める場面を作る。特に協力型ゲームでは、誰がどの役割を担当するかを話し合う時間を確保する。</p> <p>【傾聴と対話】 「犯人は誰か」などの対話を中心としたゲームでは、発言のタイミングや内容を整理し、相手の発言を注意深く聞いて判断する力を育む。また、適度にフォローアップの質問を投げかけ、対話を促進。</p>
	人間関係・社会性	<p>○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。</p> <p>○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。</p>	<p>【協調性とチームワーク】 協力型ゲームでは、チームのメンバーと役割分担を話し合い、全員がゲームの成功に貢献する体験を提供。失敗しても、次にどうすればよいかを一緒に考える時間を作る。 対戦型ゲームでは、勝敗にこだわりすぎず、フェアプレイを重視する文化を促進。勝った場合も負けた場合も、相手に感謝の気持ちを表す習慣を育む。</p> <p>【自己主張と譲歩のバランス】 ゲームが終了した後は、プレイ内容を振り返り、良かった点や改善すべき点について話し合う時間を設け、反省と自己成長の機会とする。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
郊外ウォーキング	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なウォーキングで心身の健康を維持し、運動習慣を促進する。 ○自然環境の中でリラックスし、情緒の安定を図る。 	<p>【定期的なウォーキングによる心肺機能の向上と運動習慣の形成】 毎週定期的にウォーキングを行うことで、心肺機能を高め、身体を動かす習慣を作る。</p> <p>【自然とのふれあいを通じたリラックスと健康促進】 周囲の景色や季節の変化を感じながら歩くことで、自然に親しみ、リラックスできる環境を提供する。ウォーキング後に水分補給や軽いストレッチを行い、健康的な生活習慣を促す。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○バランス感覚や姿勢を意識しながら歩くことで、体の協調性や全身の運動スキルを向上させる。 ○足元や周囲の環境を観察しながら歩くことで、視覚と運動の感覚統合を高める。 	<p>【正しい姿勢と歩行技術の習得によるバランス感覚の向上】 事前に正しい姿勢や歩き方、特に列に並んで歩く際のバランスの取り方を指導する。定期的に確認しながらウォーキングを進める。</p> <p>【空間認識と環境への注意力の向上】 足元の段差や信号などの環境に注意を向けさせることで、空間認識や視覚情報をもとに行動できるように支援する。例えば、「次の交差点では何に注意が必要？」と問いかけ、意識的に周囲を見るよう促す。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○交通ルールや信号の使い方を学び、規則に従って行動する習慣を身に付ける。 ○集中力や注意力を向上させ、安全な行動を取る力を育てる。 	<p>【交通ルールの理解と実践を通じた安全意識の向上】 ウォーキング中に交通ルールについての説明を行い、信号機や横断歩道を使う際に実践させる。たとえば、「信号が青になるまで待とう」と言い、周りを確認する習慣をつける。</p> <p>【ウォーキング計画を通じた認知力と行動コントロールの促進】 ウォーキング前にその日のルートや注意点を事前に説明し、計画的に進めることで認知力と行動のコントロールを促進する。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキング中に仲間と会話をしながら、自分の感じたことや観察したことを言葉で表現できるようにする。 ○交通ルールについての説明や指示を理解し、それに基づいて行動できる言語理解力を養う。 	<p>【ウォーキング体験を通じた対話力の向上と観察力の育成】 ウォーキング中に見た風景や気づいたことを言葉で説明させる場を設け、対話を促進する。例えば、「あの花は何色？」や「何か面白いものを見つけた？」と問いかけ、自由に話す時間を持たせる。</p> <p>【交通ルールの理解を深めるためのコミュニケーション促進】 交通ルールに関する簡単な質問を投げかけ、理解度を確認することでコミュニケーションを活発にする。例えば、「赤信号のときはどうするの？」といった質問を通してルールを再確認させる。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【協力意識を高めるウォーキング活動の実践】 ウォーキング中は全員が協力し合って列を保つことを意識させ、周囲とのコミュニケーションを大切にする。ウォーキング前に「皆で同じスピードで歩こう」「列を乱さないようにしましょう」といった指示を確認させ、協力の意識を高める。</p> <p>【ポジティブフィードバックを通じた社会的ルールの意識育成】 列を乱さないように歩けたときや、交通ルールを守って安全に行動できたときには、積極的に褒めてポジティブなフィードバックを与える。これにより、社会的なルールに従う意識を育てる。</p>

カプラ遊び

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○集中力や忍耐力を身に着け、途中で諦めずに最後まで取り組む力を育てます。 ○細かい作業を通して、手指の運動を意識し、物を扱う力や動作をスムーズに基礎を作ります。 	<p>【遊びの時間管理と片付け習慣の育成】 遊びの時間を決めて、それを守る習慣をつけます。終わったら声をかけ、時間内で片付けられるようにします。</p> <p>【指先の器用さと集中力を育むブロック遊び】 ブロックを先取りして指先を使う練習を行います。職員が手本を見せたりサポートしながら、完了するまでのサポートを行います。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○指先を使った細かい動作や、感覚を育てることで、物を扱う力や動きの正確さを向上させます。 ○ブロックの配置や積み上げを通して、どこに何を置くかを考える力を養い、空間認知力を高めめます。 	<p>【集中力とバランス感覚の育成】 ブロックを高く積み上げる際に、慎重に取り組むことや、バランスを取ることを言います。落ち着いて取り組んでサポートをしながら進めます。</p> <p>【集中力と達成感の体験】 ドミノ倒しでは、1つ1つブロックを並べることで集中し、完成したら倒して遊び楽しさを体験させていただきます。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○指示された課題や見本を見て計画的に進む力、理解する力を養います。 ○自分の作品を完成させ、達成感を味わうことで自己肯定感や自信を育てます。 	<p>【問題解決力と創造性の育成】 職員が例として簡単な見本を提案し、どの順番で組み立てるか考えさせます。不明な部分があればヒントを出してサポートします。</p> <p>【自己肯定感と達成感の促進】 完成した作品を展示するなど、他の子どもたちから褒められる機会を作り、達成感を感じさせます。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の作りたいものや意見を他人に伝える力を育てます。 ○他の子どもが作った作品について感想を言ったり、会話のキャッチボールを楽しんだり経験を増やします。 	<p>【コミュニケーション能力の向上】 「何を作りたいのか?」「どうやって作るか?」について、他の子どもと話し合う時間を設け、言葉で表現する力をサポートします。</p> <p>【創造性と協力の促進】 職員からの「これはどうですか?」という提案に応じて、他の子どもとアイデアを交換し合う機会を作り、自然な会話が生まれます。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【順番を守る重要性の理解】 交代でブロック遊びをさせることで、自分の順番を守る大切さを学ばせます。順番が待てることを職員が声をかけてサポートします。</p> <p>【協力と感謝の心を育む】 共同保育制作、他の子どもたちの意見も尊重し、お互いに称賛する時間を設け、感謝と協力する気持ちを自然に育みます。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
S S T / 感覚統合あそび / e ス ポ ー ツ	健康・生活	<p>○感覚統合遊びやeスポーツを通じて、心身の健康を促進し、生活習慣の一環として体を動かすことの大切さを学ぶ。</p> <p>○生活の中で規則正しい遊びや運動のリズムを作り、日常生活のバランスを整える。</p>	<p>【感覚統合遊びを通じた身体的健康の維持と向上】 感覚統合遊びでは、身体を動かすことで体力をつけ、バランス感覚や柔軟性を高める時間を設ける。日常生活での身体的健康を維持するために、継続的に行う。</p> <p>【健康的なゲーム習慣の促進とスクリーンタイムの管理】 eスポーツを行う時間もルールに沿って制限し、スクリーンタイムを適度にコントロールすることで、健康的なゲーム習慣を促す。</p>
	運動・感覚	<p>○感覚統合遊びで、身体の動きと感覚の協調を高め、空間認知能力や運動スキルを向上させる。</p> <p>○eスポーツを通じて、視覚と手の操作の協調性や反応速度を養う。</p>	<p>【バランス感覚を養う運動遊びと成功体験の提供】 ボールキャッチや狭いブロックの上を歩く遊びでは、バランス感覚を意識しながら身体をコントロールする練習を行い、運動機能の向上を図る。適宜サポートを行い、難易度を調整して成功体験を提供する。</p> <p>【eスポーツを通じた集中力と反応力の育成】 eスポーツでは、コントローラー操作やゲームの視覚的な反応に対する手の動きをサポートし、集中力と反応力を育てる。</p>
	認知・行動	<p>○ソーシャルスキルトレーニングでは、社会的なルールや相手の感情を理解し、適切な行動を選択する力を養う。</p> <p>○eスポーツでは、ゲームのルールを学び、計画的に戦略を立てて行動する認知力を強化する。</p>	<p>【ソーシャルスキルトレーニングを通じた問題解決能力と共感力の育成】 ソーシャルスキルトレーニングでは、さまざまな場面を想定し、問題解決の方法や他者の気持ちを理解するトレーニングを行う。質問形式で「こんなときどうする？」と問いかけ、子どもたちが自分で考える時間を作る。</p> <p>【eスポーツを通じた計画的行動と自己コントロールの育成】 eスポーツでは、ルールや戦略を説明し、実際のゲームプレイを通じて計画的に行動できるように指導する。また、勝敗に対する適切な反応や自己コントロールを学ぶ時間も設ける。</p>
	言語・コミュニケーション	<p>○ソーシャルスキルトレーニングで、相手とのコミュニケーションや適切な表現方法を学び、対話力を育てる。</p> <p>○eスポーツや感覚統合遊びでは、友達との対話を通じてコミュニケーション力を高め、協力して遊ぶ力を養う。</p>	<p>【自己表現とコミュニケーション能力の向上】 「相手の気持ちを考える」や「こんなときどうする？」といった質問に対して、子どもたちが自分の考えを言葉にする時間を作り、他者とのコミュニケーション能力を向上させる。話を聞いてもらうことで、自己表現の機会を増やす。</p> <p>【eスポーツを通じた順番とコミュニケーションの重要性】 eスポーツの交代制では、ルールに従い順番を守ることや、他の子どもと意見交換しながら楽しむことで、コミュニケーションの練習を行う。</p>
	人間関係・社会性	<p>○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。</p> <p>○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。</p>	<p>【シミュレーションを通じた他者との関わり方の理解】 ソーシャルスキルトレーニングでは、シミュレーションを使って子どもたちが他者とのように関わるべきかを具体的に考える練習を行う。例えば、「友達が困っていたらどうする？」といった場面を想定し、適切な行動を導く。</p> <p>【eスポーツと感覚統合遊びを通じた協調性と社会性の育成】 eスポーツや感覚統合遊びでは、順番を守る、勝敗を受け入れる、他者を応援するなどの行動を促し、協調性や社会性のスキルを伸ばす。対戦や協力プレイを通じて、他者との関わり方を学ぶ。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
室内遊び	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○持続的に活動できる姿勢や自己管理能力を養う。 ○楽しみながら健康維持を図る習慣を身につける。 ○遊びや活動を通じて適度な休憩を取る重要性を理解する。 	<p>【集中力と持続力のサポート（迷路遊び、パズル、色塗り）】 各活動で達成させる喜びを感じることを重視します。ゴールを明確に、小さな達成感を積み重ねて集中力が持続するよう支援します。色塗りや迷路は少しずつ難易度を上げ、無理なく挑戦できる環境を整えます。</p> <p>【姿勢と疲れにくい体勢の学習（色塗り、プチ遊びブロック）】 長時間の活動に適した姿勢指導を行い、途中で適度に休憩を挟むことで集中力と体力が持続するようサポートします。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○感覚統合を促し、手先の器用さやバランス感覚を養う。 ○新しい感覚刺激に慣れ、動きの幅を広げる。 ○活動を通じて全身をバランス良く動かす体験を増やす。 	<p>【微細運動と手先の器用さのサポート（紙、プチブロック遊び、知恵の輪）】 手と指の動きの協調性を強化するため、適切な道具（折り紙やプチブロック、ボール迷路）を提供し、指先を動かす楽しさを伝えます。</p> <p>【タイミングと空間認識（風船遊び、ドミノ遊び）】 風船遊びやドミノを並べる遊びでは、タイミングよく体を動かす練習を行います。遊びの中の空間認識力を養い、職員がタイミングを調整するなどして安全に配慮します。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びを通じて自己肯定感を高め、思考力や集中力、計画性を育てる。 ○達成感や成功体験を積み重ね、自己効力感を強化する。 ○他者と協力する過程でルール理解や行動調整の力を養う。 	<p>【問題解決力のサポート（迷路遊び、知恵の輪、パズル）】 迷路遊び、知恵の輪で自分で考える習慣を育てます。職員はヒントを与えながら解決まで見守ります。達成感を感じられるように支援し、「できました！」という経験を重ねて自信を持たせます。</p> <p>【計画性と目標達成の支援（ドミノ遊び、紙）】 ドミノ遊びでは計画的に並べる練習を行い、目標達成のための計画を職員と一緒に考えます。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の気持ちや考えを言葉で表現する力を育てる。 ○他者の話を聞く態度を養い、共感力を高める。 ○簡単なやり取りや質問応答を通して、日常的な会話力を育成する。 	<p>【自己表現力のサポート（色塗り、折り紙）】 完成後に「どう感じたか」「楽しかった部分」を聞き、自分の考えを言葉にする練習を考えます。また、感想を伝えることで表現力を育みます。</p> <p>【協力とコミュニケーションの支援（ドミノ遊び、風船遊び）】 ドミノや風船遊びでは、相手に伝える力や譲り合う心を育み、他の子どもと一緒に遊びながらコミュニケーションの重要性を学びます。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【役割分担と協力のサポート（風船遊び、ドミノ遊び）】 風船やドミノ遊びでは交代や順番待ちを練習し、協力を育みます。ルールを守ることを大切に伝え、トラブルが起きたときは職員が仲裁しながら、共に協力する経験を積ませていただきます。</p> <p>【譲り合いの支援（パズル、プチブロック遊び）】 複数人で遊ぶ場面では他者への配慮を指導し、お互いに助け合うことを支援します。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
音楽活動	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動を通じて精神的リラクゼーションを促し、ストレスを軽減する。 ○生活リズムの中で音楽の時間を活用し、リズム感や規則性を感じる力を高める。 	<p>【ストレスの軽減】 活動の開始時と終了時にリラックスできる音楽やストレッチを取り入れることで、心身の調整をサポートする。</p> <p>【リズム感】 「太鼓の達人」や手拍子リズムゲームなどを行い、音楽と生活リズムの関係を体感させることで、子どもたちが時間の流れや順序立てた行動を学べるようにする。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器演奏や手拍子を通じて微細運動と粗大運動のスキルを高める。 ○聴覚と視覚、身体感覚の統合を促進し、感覚統合能力を向上させる。 	<p>【微細運動の発達】 タンバリンやカスタネット、マラカスなどを使ってリズムに合わせて演奏する活動を通じ、手指や腕の動きをコントロールする微細運動の発達を支援します。</p> <p>【リズム感覚を養う】 手拍子やリズムに合わせて体全体を使う活動を取り入れ、リズム感覚と身体の運動を意図させる。特に「太鼓の達人」のようなリズムゲームでは、タイミングよく打つ動作が重要になるため、感覚と運動の統合を自然に促す。</p> <p>【視覚的運動】 音楽に合わせて手話で表現する活動では、音楽を身体で感じながら言葉や感情を伝える力を強化し、視覚的な感覚と運動を連動させる。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽のリズムや歌詞を通じて、記憶力や集中力、注意力を向上させる。 ○問題解決力や推論力を鍛え、音楽を使って想像力を刺激する。 	<p>【記憶力向上】 「曲名当て」や「鼻歌から曲を当てる」活動では、聞いた音楽を記憶し、推測する力をサポート。特定のフレーズやメロディを覚えるトレーニングとして、音楽を使った認知トレーニングを行う。</p> <p>【集中力向上】 歌詞を聞き取り、それを紙に書く活動を通じて、音楽を聴きながら集中する力を鍛える。さらに、歌詞を書き出すことで視覚認知と手の動きの連携も強化する。</p> <p>【想像力の刺激】 擬音から絵カードを当てる活動では、音を聞いてそれが何を表しているのか推測し、認知力や想像力を刺激。音のイメージを視覚的に表現する力を養う。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を介して言語理解や表現力を向上させる。 ○歌詞を通じて語彙を増やし、言葉の使い方や意味理解を深める。 	<p>【自然な言語表現】 歌を歌う活動では、音楽に合わせて感情や意図を表現する練習を通じて、自然な言語表現を促進。歌詞の内容をみんなで共有し、それについて話し合うことで、言葉の意味を深く理解させる。</p> <p>【非言語コミュニケーション】 手話を使って音楽を表現する活動では、言葉を使わずに音楽や感情を伝えることに挑戦し、非言語コミュニケーションのスキルを向上させる。</p> <p>【聴覚情報処理】 歌詞を書き取る活動を通じ、音楽から聴覚情報を正確に受け取り、それを文字として表現する力を鍛える。これにより、聴覚情報処理と書字能力の両方をサポートする。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【チームワークの感覚強化】 グループで歌を歌う活動や楽器演奏では、他者と協力してリズムを合わせたり、声を揃えることで、協調性を育む。特に、手拍子でリズムを合わせたり、楽器の演奏を協力して行うことで、チームワークの感覚を強化します。</p> <p>【共感や一体感を感じる】 音楽を手話で表現する際には、周囲の人と目を合わせたり、同じ動作を共有することで、他者とのつながりを感じる機会を増やし、共感や一体感を感じる体験を提供。</p> <p>【社会性向上】 リズムゲームや「鼻歌から曲を当てる」などの活動では、ゲーム感覚で競争しながらも、勝敗に固執せず、みんなで楽しむことを重視し、健全な社会的関わりをサポートする。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
視聴覚 / 読み聞かせ	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○規則的な学習とリラクスの時間を設け、生活リズムを整える。 ○アニメ視聴や絵本の内容から得られる知識を日常生活に活かし、健康や衛生に関する理解を深める。 	<p>【日常生活に役立つリズム形成とリフレクションを通じた学び】 アニメの視聴時間や絵本の読み聞かせの時間を決め、一定の時間で行うことで生活リズムの安定を図る。視聴後のリフレクションタイムや簡単なディスカッションを取り入れ、日常生活で役立つ内容について考えさせる。</p> <p>【アニメを通じた健康教育と実生活への応用】 「はたらく細胞」のようなアニメでは、体の中で起こっていることに興味を持たせ、健康維持や病気予防に対する理解を促進。視聴後に「どんなふうに健康を保つか」をテーマに話し合いを行い、健康管理に関する知識を実生活に結びつける。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○静止した状態で集中することを習慣化し、適切な姿勢や視覚・聴覚の活用をサポートする。 ○感覚情報の処理を強化し、視覚と聴覚から得た情報を統合して理解する能力を高める。 	<p>【視聴姿勢とリラクゼーションで学ぶ健康習慣の育成】 アニメ視聴中に適切な姿勢を保つことを意識させ、視聴前後に軽いストレッチやリラクゼーションを取り入れ、長時間座ることによる体の負担を軽減。</p> <p>【絵本の読み聞かせを通じた感覚統合と表現力の向上】 絵本の読み聞かせでは、色鮮やかな絵や言葉を意識的に聞かせることで、視覚と聴覚の感覚統合を促進。特にイラストや音声表現に合わせて子どもたちに質問を投げかけ、感覚的なフィードバックを引き出す。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○集中力や注意力を向上させ、物語やアニメの内容を理解する力を養う。 ○科学的な知識や論理的思考力を育て、日常生活の問題解決に活かす。 	<p>【予測と質問を通じた物語理解と思考力の育成】 読み聞かせ中に、内容に関連する質問をしたり、次の展開を予測させたりすることで、物語の理解を深め、思考力を促す。例えば、「次にどうなると思う？」などの質問を投げかけ、物語の展開に対して考えさせる。</p> <p>【科学アニメと実験体験による探究心と知識の応用】 「Dr.STONE」や「でんじろう先生の理科実験」のようなアニメでは、科学的な概念を学ばせ、実際の生活や自然現象に対して興味を持たせる。アニメ視聴後に実際に簡単な実験を行い、視覚的に得た知識を体験として応用させる。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○物語の内容やアニメのテーマについて他者と意見交換することで、言語表現力と対話力を向上させる。 ○読み聞かせやアニメ視聴を通じて新しい語彙を学び、表現の幅を広げる。 	<p>【ディスカッションを通じた表現力と対話スキルの向上】 絵本やアニメの内容についてディスカッションを行い、子どもたちに自分の意見を言葉で表現させる。例えば、「このキャラクターがどう感じたか」「この実験の結果はどうなるか」など、具体的な質問を通じて対話を促す。</p> <p>【読み聞かせとアニメを通じた感情表現と語彙力の強化】 読み聞かせ後に、登場人物の気持ちを想像して話し合うことで、感情表現の練習や語彙の増強をサポート。また、アニメ視聴後には難しい言葉や科学的な用語の意味を簡単に説明し、日常で使えるようにする。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【協力と役割分担を通じたチームワーク体験】 絵本やアニメのテーマに基づいて、他者と協力して問題を解決する場面を設ける。たとえば、「はたらく細胞」の免疫システムに関連した内容で、チームで細胞の役割を演じるようなゲームを取り入れ、協力する楽しさを体験させる。</p> <p>【感想共有を通じた多様な視点の理解と自己表現】 アニメ視聴後、感想をみんなで共有し、異なる意見や考え方に対する理解を深める場を作る。これにより、他者の意見を尊重しながら自分の考えを表現する社会的スキルを高める。</p>

プログラム	5領域	目的/目標	支援内容
粘土遊び	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土遊びを通じてリラックスする時間を持ち、情緒の安定を図る。 ○手を使った活動により、細かな作業を習慣化し、日常生活での手先の器用さを向上させる。 	<p>【粘土造形によるリラクゼーションと創造力の育成】 粘土造形は心を落ち着かせる効果があるため、子どもたちが自由に作る時間を提供し、リラックスできる環境を整える。</p> <p>【造形活動を通じて手先の器用さと集中力の向上】 造形活動を定期的に行い、手先を使う日常動作（例えばボタンをかける、ハサミを使うなど）の精度を高めるように促す。特に、細かい造形に挑戦させることで、手の器用さと集中力を養う。</p>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土を扱うことで手指の細かい動作を強化し、微細運動スキルを向上させる。 ○粘土の感触を通じて触覚刺激を得ることで、感覚統合を促進する。 	<p>【道具を使った微細運動と手の協調性の向上】 子どもたちが指先を使って細かな造形物を作るよう促し、手指の微細運動を強化する。特に、道具（例えば粘土用ナイフやローラー）を使わせることで手の協調性を高める。</p> <p>【粘土造形を通じた感覚処理と触覚の発達】 粘土の固さや柔らかさ、冷たさや温かさなどの感覚を感じ取らせ、感覚的なフィードバックを意識させることで、感覚処理のスキルを向上させる。粘土を捏ねたり伸ばしたりする過程で、力加減や触感の違いを楽しませる。</p>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○自由造形では創造力を高め、お題に沿った作品作りでは問題解決能力や計画性を養う。 ○自分のアイデアを形にすることで、思考と行動の統合を促進し、目標達成力を高める。 	<p>【自由造形を通じた創造性と自己表現の促進】 自由な造形では、子どもたちに自分で考えたアイデアを元に作品を作るように促し、想像力を育てる。例えば「好きなものを作ってみよう」という指示で、独自のアイデアを反映した作品を生み出させる。</p> <p>【お題に基づく計画性と段階的な表現力の育成】 お題に沿った作品作りでは、手順を考えながら進めるように促し、計画性を持たせる。例えば「動物を作る」というテーマで、まず頭部を作り、その後胴体を作るといった具体的なステップを意識させる。</p>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の作品について他者に説明することで、言語表現力や説明力を向上させる。 ○他者の作品を評価したり、意見交換を通じて対話のスキルを高める。 	<p>【作品発表を通じた自己表現と説明力の強化】 子どもたちが自分の作品を発表する場を設け、どうやって作ったか、どんなアイデアを反映させたかを説明させることで、言語表現力を高める。作品発表の時間を設定し、「どんなものを作ったのか」「どうやって作ったのか」を他の子どもたちに伝えさせる。</p> <p>【作品鑑賞を通じた対話力と相互理解の促進】 他の子どもたちの作品を見て、感想や質問を投げかけることで、相互の対話を促し、聞く力と話す力のバランスを育てる。</p>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ○ドッチボールや風船バレーなどのチームゲームを通じて、他者と協力し合うことの大切さを学び、仲間との信頼関係を築く力を養う。 ○勝ち負けのあるゲームを通じて、負けたときの悔しさや、勝ったときの喜びを経験し、感情のコントロールや他者への配慮を学ぶ。 	<p>【作品評価を通じた相互理解と肯定的な態度の育成】 子どもたちがそれぞれの作品を評価し合う時間を作り、他者の意見に対して肯定的な態度を持つように指導する。「どこが素晴らしいと思うか」を話し合う場を設け、他者の視点に立って考えられるようにサポートする。</p> <p>【チーム制作を通じた協力とコミュニケーションの強化】 チームで一つの作品を作る活動を取り入れ、役割分担をさせることで、協力する力を育てる。一人が形を作り、もう一人が装飾を担当するといった分担作業を通じて、コミュニケーションと協力の重要性を学ばせる。</p>